

編修趣意書

教育基本法との対照表

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|-----------|-----------|------|-----|----|
| 28-73 | 高等学校 | 芸術科 | 美術Ⅱ | |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教科書名 | | |
| 38 光村 | 美Ⅱ 303 | 美術2 | | |

I. 編修の基本方針

自己を深め、視界をひらく美術。

教科書全体を通して、美術の創造的な諸活動を体感させ、生徒の美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情が育てられるように心がけました。また、「美術Ⅰ」における幅広い美的体験の上に立ち、生徒が自己を深め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、その主体性や個性を生かした学習活動を展開させることを目指し、編修の基盤としました。

1 美術を学ぶ意味を実感する

- 「美術Ⅰ」における幅広い美的体験の上に立ち、美術への理解を深め、それを愛好する心情をより深化させていくことができる教科書を目ざしました。自己や対象の内面をより深く見つけて表現する題材や、社会で起きている問題に気づき、それを解決するための工夫を考える題材などを設け、生徒一人一人が、創造活動の喜びや意義について自分なりに感じ取ることを意図して編修しました。


2 主題を生むための手がかりが充実

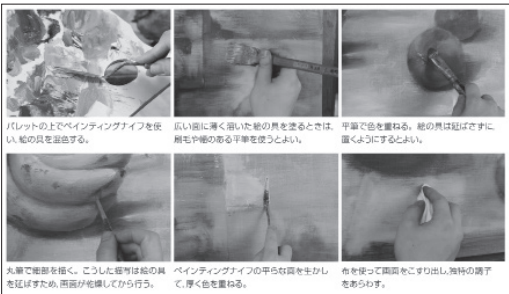
- 授業の中で教科書をより有効に活用できるように、各題材において、作品をつくるときの発想の手がかりや表現のヒントを示しました。また、意図に応じて材料や用具の特性を生かすことができるような資料を充実させるなど、教科書全体を通して、表現の参考になる内容を随所に掲載しました。

3 生徒の感性に響き、意欲につながる作品群

- 高校生の感性を刺激する現代的な作品やテーマ、アニメーションの原理を伝えるパラパラアニメを掲載するなど、楽しみながら学習を進められるような工夫を随所に設け、美術をより身近に感じられる教科書を目ざしました。美術作品や文化財などから美や創造のすばらしさを感じ取り、身につけてきた知識や能力をさらに生かし、生涯を通して美術文化についての理解が深まることを意図して編修しました。

Ⅱ. 対照表

| ページ | | 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 | | |
|---------|----------------------|-------------------------------|--|----------------------------------|---|--|
| P.2~3 | | 目次 | ○日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国を始め、さまざまな地域の作例を取り上げることで、我が国だけでなく、他国の文化も尊重する態度が養われるように配慮した。 ——【第五号】 | ・P.2~3 ・P.33 ・P.50~51 | | |
| P.4~5 | はじめに | 心の記録、創造の源 | ○生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、イメージを形にするスケッチを取り上げたオリエンテーション、自己や対象の内面をより深く見つめて表現する題材などを設けた。 ——【第一号】 | ・P.4~5 ・P.6~7 | | |
| P.6~7 | 絵画・彫刻 | 見えるものの向こうに |  <p>墨画 紙、鉛筆、色鉛筆、水彩 35.2×27.3cm 制作年不詳 山口隆弘</p> | P.4「心の記録、創造の源」より | | |
| P.8~9 | | うつろう自然を描く | | | | |
| P.10~11 | | 記憶の中の風景 | | | | |
| P.12~13 | | [作品鑑賞室] 誘惑に打ち勝つ聖人 | | | | |
| P.14~15 | | [見る・知る・学ぶ] 絵に隠された謎 | | | | |
| P.16~17 | | シルクスクリーンの世界 | | | | |
| P.18~19 | | 銅版画の世界 | | | | |
| P.20~21 | | [作家の生涯と作品] コンスタンティン・ブランクーシ | | | | |
| P.22~23 | | 身近な材料でつくる | | | ○見て感じ取ったことを話し合う鑑賞の活動を想定した題材を設定し、個人の価値を尊重し、認め合う態度が培われるように工夫した。 ——【第二号】 | ・P.12~13 ・P.26~27 |
| P.24~25 | | 想像上の生物をつくる | | | ○伝統と文化を尊重する態度を養うために、季節の表現に注目して屏風を鑑賞する題材を設けたり、絵巻物や浮世絵などの作品を取り上げたりしている。また、巻末の資料では日本画の技法を紹介するなど、我が国で大切にされ、今も息づく伝統や文化を積極的に取り上げた。 ——【第五号】 | ・P.8 ・P.26~27 ・P.28~29 ・P.60~61 |
| P.26~27 | [作品鑑賞室] 力強い自然 | | | | | |
| P.28~29 | [見る・知る・学ぶ] ものに宿る魂 | | | | | |
| P.30~31 | デザイン | 色を選ぶ | ○情報をわかりやすく効果的に伝えるためのグラフィックデザインや、社会の問題を解決することをめざすプロダクトデザインなどを紹介し、自らが生きる社会の中で、文化の継承や発展を主体的にめざす態度を養えるよう工夫した。 ——【第三号】 | ・P.30~31 ・P.32~33 ・P.36~37 | | |
| P.32~33 | | 情報を視覚化するデザイン | ○平和を呼びかけるポスターや地雷を除去する装置などを取り上げ、平和や国際的な問題について考え、平和を希求する心が育つよう意図した。 ——【第五号】 | ・P.30 ・P.37 | | |
| P.34~35 | | 統一感をつくるデザイン | | | | |

| ページ | | 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|---------|----------|--------------------------|---|--|
| P.36～37 | デザイン | 問題を解決するデザイン | ○国際社会の抱える問題をテーマにした作品を掲載したり、世界の映像メディア表現を紹介する題材を設けたりして、本国だけでなく世界の動向にも目を向ける態度の涵養へとつながるよう工夫した。 ——【第五号】 | ・P.33 ・P.36～37 ・P.50～51 |
| P.38～39 | | 座るための道具「椅子」 | | |
| P.40～41 | | [作家の生涯と作品] アルヴァ・アアルト | | |
| P.42～43 | 映像メディア表現 | 人物を撮影する | ○教科書全体を通して、多様な方法でつくられた作家作品や生徒作品を示し、さまざまな表現に触れることで、個人の価値を尊重する態度を養えるように工夫した。また、適宜作品に作家の言葉を添え、生徒が作家の考え方や制作に向かう姿勢に共感しながら、自らの創造性を培えるように意図した。 ——【第二号】 | 全体 ・P.6 ・P.10 ・P.20 ・P.30 ・P.40 ・P.42 ・P.45 |
| P.44～45 | | 構図を工夫して撮る | | |
| P.46～47 | | プロモーション映像をつくる | | |
| P.48～49 | | アニメーションをつくる | | |
| P.50～51 | | [見る・知る・学ぶ] 世界のアニメーション | | |
| | | | | |
| P.52 | 資料 | [インタビュー 美術の仕事] 奈良美智 | P.45「構図を工夫して撮る」より | |
| P.53 | | [インタビュー 美術の仕事] 石内 都 | ○巻末に「インタビュー 美術の仕事」という資料を設け、さまざまな分野の作家の仕事や生き方を紹介し、生徒の職業への意識や勤労を重んずる態度が養われるように配慮した。 ——【第二号】 | ・P.52 ・P.53 ・P.54 ・P.55 |
| P.54 | | [インタビュー 美術の仕事] 水戸岡鋭治 | ○巻末に、生徒自らが必要に感じたときに活用することを意図して、色に関する資料や技法の資料などを設け、自主・自律の精神のもと、学習を進められるように配慮した。 ——【第二号】 | ・P.56～57 ・P.58～59 ・P.60～61 |
| P.55 | | [インタビュー 美術の仕事] 遠藤彰子 |  <p>パレットの上でペインティングナイフを使い、 広い面に薄く塗った絵の具を塗るときは、 厚毛や硬い筆の平筆を使うとよい。 平筆で色を塗るときは、 絵の具は乾かす前に、 置くようにする。塗り、 厚く色を塗るときは、 毛を使って顔料をこすり出し、独特の調子 をあらわす。</p> | |
| P.56～57 | | 色を深く知ろう | P.59「油絵の具で描く」より | |
| P.58～59 | | 油絵の具で描く | ○豊かな自然の姿を取り戻そうとする人物をテーマにしたアニメーション作品や、使わなくなったおもちゃや浜辺に流れ着いたごみを素材にして制作された作品などを紹介し、生徒が環境保全について考え、自然環境を守ることの大切さを感じ取ることができるよう配慮した。 ——【第四号】 | ・P.23 ・P.48 ・P.62～63 |
| P.60～61 | | 日本画の絵の具で描く | | |
| P.62～63 | | あとがき | | |

編修趣意書

学習指導要領との対照表

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|-----------|-----------|------|-----|----|
| 28-73 | 高等学校 | 芸術科 | 美術Ⅱ | |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教科書名 | | |
| 38 光村 | 美Ⅱ 303 | 美術2 | | |

I. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習指導要領と教科書の関連

- 教科書全体において、美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深められるよう心がけました。

2 教科書の構成

〈全体の構成〉

- 学習指導要領の構成に合わせ、教科書全体をA表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」とB鑑賞の領域、巻末の資料とに分けて整理しています。また、それぞれが一目で分かるようにインデックスで色分けをし、実用的な教科書としての機能性を高めました。巻末の資料は、関連した資料を生徒自身が参考にして表現・鑑賞の幅を広げられることを意図して設けました。

3 各領域の内容と特色

〈「A 表現」について〉

- 「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」それぞれの分野の題材において、多様な表現活動を促せるように、作品の選定や取り上げる活動のバランスと量に配慮しました。
- 題材の中では「主題の生成」と「創造的な表現」が関連づくよう、目標の設定や「制作ノート」の活動、生徒作品などを示し、相互の資質や能力がいっそう高まるように配慮しました。
- 「創造的で心豊かな表現の構想」を育むために、巻末の資料で、技法や用具の扱い方などを取り上げました。

〈「B 鑑賞」について〉

- つくり手の心情や意図を理解するための「作家の言葉」を随所で紹介しています。また、図版のキャプションには適宜解説文を添え、より鑑賞が深まるように工夫しました。
- 「作家の生涯と作品」という題材では、作品の鑑賞に加え、作家の人生や時代背景を俯瞰しながら、鑑賞活動がより深まるように工夫しました。
- 「見る・知る・学ぶ」という題材を設け、日本の美術の特徴や世界のアニメーションの多様性などを紹介し、日本及び諸外国の美術文化の理解をより深められるように構成しています。
- 「作品鑑賞室」という題材では、一つの作品を見開き2ページで扱いました。また、生徒への問いかけを記し、作品について深く考えたり、分析して批評し合ったり、細部まで鑑賞したりする活動を提案しました。

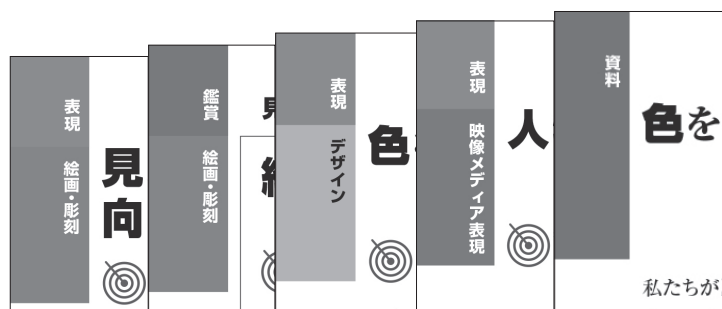
4 学習効果を高めるための、構造上の工夫点

〈目次〉

- 目次は「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」などが色帯で即座に認識でき、また、題材の活動内容の形で識別できるように、目次の●印で表現、◆印で鑑賞をあらわしています。

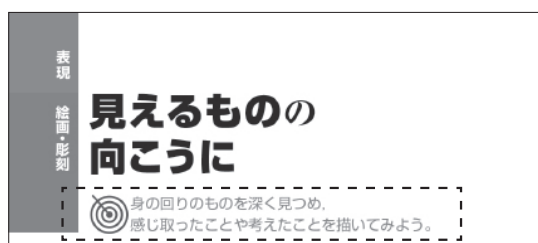
〈インデックス〉

- インデックスは目次と連動しており、「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の学習指導要領の項目、資料などが一目でわかるデザインとなっています。
- インデックスは、色覚特性の観点から校閲を行い、色や文字を工夫しました。



〈目標〉

- 各題材には題材名の近くに「目標」を明示し、身につけたい力や学習のねらいを明確にしました。



〈制作ノート〉

- 表現題材には、作品を発想し、制作する際の参考になる「制作ノート」を設けました。「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の題材に関連して、発想・構想・技法に関わる情報を紹介しています。



5 巻頭・巻末等の内容と特色

〈巻頭・巻末について〉

- 巻頭・巻末では、既存の表現から一歩進んで、素材の工夫やスケール感が新鮮な驚きや感動をよび起こす作品を取り上げました。巻頭では、漂流植物をモチーフに海を越えた国際交流をあらわした林 舜龍の作品、巻末では、ごみを用いた美しい空間演出で環境保全を訴えるヨーガン・レールの作品を紹介しています。作品のスケール感が伝わるよう、見開き2ページで写真を大きく掲載しました。

〈「心の記録、創造の源」〉

- 学年初めのオリエンテーションの授業での使用を考え、作家の作品とスケッチを紹介する「心の記録、創造の源」を設けました。あらゆる創造活動は頭の中のイメージから始まることを感じ取らせ、美術の学びに対する主体性を喚起し、生徒自身の発想・構想の手がかりとなることを意図しました。

6 学習を支える資料の充実

〈インタビュー 美術の仕事〉

- 「インタビュー 美術の仕事」では、奈良美智、石内 都、水戸岡鋭治、遠藤彰子の4名のインタビューを掲載し、作家の心情や生き方、美術を学ぶ生徒たちに向けたメッセージを紹介しました。

〈技法・色彩に関する資料〉

- 「油絵の具で描く」「日本画の絵の具で描く」では、基本的な制作の流れを用具の扱い方とともに紹介し、生徒自身の表現の参考となることを意図しました。
- 「色を深く知ろう」は、表現題材と鑑賞題材ともに、必要に応じて活用できるように配慮した資料です。

〈映像メディア表現の資料〉

- 映像メディア表現の特質や表現の効果などが理解しやすくなるよう、ページ下に「パラパラアニメ」を配置しました。

7 今日的な教育課題への対応

〈特別支援教育への配慮〉

- 教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から専門家による校閲を受け、すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

〈伝統文化の尊重〉

- 日本美術の作品を多く掲載し、伝統文化を育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるよう配慮しました。

〈ICT環境の活用〉

- 作品制作の中でコンピュータを使用する活動など、ICT機器を積極的に活用する例を取り上げています。

〈キャリア教育の視点〉

- 生活の中の美術の働きに生徒が関心をもつように、生活や社会との関わりの中で存在する美術を随所に取り上げ、生涯にわたり美術を愛好する心情が育つように配慮しました。

〈人権上の配慮〉

- 「インタビュー 美術の仕事」で登場する作家をはじめ、教科書全体を通して、取り上げる作品の作家について性別に偏りがないようにしました。

〈安全・防災教育への配慮〉

- 社会に働きかける美術の試みや災害と関わるデザインなど、安全や防災に役割を果たす美術を取り上げました。

8 その他の内容と特色

〈レイアウト〉

- A4ワイド判の紙面を最大限に生かしたレイアウトを行いました。2ページ大や1ページ大の作品掲載などを取り入れ、めりはりのある紙面構成にしました。

〈文字〉

- 読みやすさに配慮して、本文や解説文などの文字を、適切な大きさにしました。
- 教科書上での表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振り、学習がより円滑に進むように配慮しました。

〈製版・印刷・製本〉

- 質のよい原版の使用に努め、印刷にあたっては、製版と印刷の緻密な色調整にこだわり、美術作品や写真などの原画の色彩をできる限り忠実に再現するとともに、原画のもつ質感を再現するようにしました。
- 本文用紙には印刷効果のよいコート紙を採用し、印刷での色彩再現性・鮮明度を向上させています。
- A4ワイド判の紙面を活用できるように、ページを開きやすいあじろ綴じを採用しています。

〈環境への配慮〉

- 環境に配慮した紙と、植物油インキを使用しています。

Ⅱ. 対照表

| ページ | | 題材名等 | 学習指導要領の内容 | | |
|---------|----------------------|----------------------------|----------------|--------|----|
| | | | A 表現 | B 鑑賞 | |
| P.2～3 | | 目次 | | アイウ | |
| P.4～5 | はじめに | 心の記録, 創造の源 | (1)ア (2)ア (3)ア | アイ | |
| P.6～7 | 絵画・彫刻 | 見えるものの向こうに | (1)アイウ | アイ | |
| P.8～9 | | うつろう自然を描く | (1)アイウ | アウ | |
| P.10～11 | | 記憶の中の風景 | (1)アイウ | アイ | |
| P.12～13 | | [作品鑑賞室] 誘惑に打ち勝つ聖人 | | アイウ | |
| P.14～15 | | [見る・知る・学ぶ] 絵に隠された謎 | | アイウ | |
| P.16～17 | | シルクスクリーンの世界 | (1)アイウ | ア | |
| P.18～19 | | 銅版画の世界 | (1)アイウ | ア | |
| P.20～21 | | [作家の生涯と作品] コンスタンティン・ブランクーシ | | アイウ | |
| P.22～23 | | 身近な材料でつくる | (1)アイウ | アイ | |
| P.24～25 | | 想像上の生物をつくる | (1)アイウ | アイウ | |
| P.26～27 | | [作品鑑賞室] 力強い自然 | | アイウ | |
| P.28～29 | | [見る・知る・学ぶ] ものに宿る魂 | | アイウ | |
| P.30～31 | | デザイン | 色を選ぶ | (2)アイウ | アイ |
| P.32～33 | | | 情報を視覚化するデザイン | (2)アイウ | アイ |
| P.34～35 | 統一感をつくるデザイン | | (2)アイウ | アイ | |
| P.36～37 | 問題を解決するデザイン | | (2)アイウ | アイ | |
| P.38～39 | 座するための道具「椅子」 | | (2)アイウ | アイ | |
| P.40～41 | [作家の生涯と作品] アルヴァ・アアルト | | | アイウ | |
| P.42～43 | 映像メディア表現 | 人物を撮影する | (3)アイウ | アイ | |
| P.44～45 | | 構図を工夫して撮る | (3)アイウ | アイ | |
| P.46～47 | | プロモーション映像をつくる | (3)アイウ | ア | |
| P.48～49 | | アニメーションをつくる | (3)アイウ | ア | |
| P.50～51 | | [見る・知る・学ぶ] 世界のアニメーション | | アイウ | |
| P.52 | 資料 | [インタビュー 美術の仕事] 奈良美智 | | アイ | |
| P.53 | | [インタビュー 美術の仕事] 石内 都 | | アイ | |
| P.54 | | [インタビュー 美術の仕事] 水戸岡鋭治 | | アイ | |
| P.55 | | [インタビュー 美術の仕事] 遠藤彰子 | | アイ | |
| P.56～57 | | 色を深く知ろう | (1)アイ (2)アイ | イ | |
| P.58～59 | | 油絵の具で描く | (1)アイウ | | |
| P.60～61 | | 日本画の絵の具で描く | (1)アイウ | | |
| P.62～63 | | あとがき | | アイウ | |